

Europe Indicators

発表日:2020年12月9日(水)

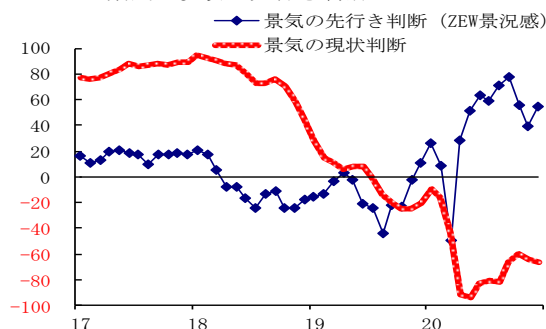
欧州経済指標コメント:12月ドイツZEW景況感

～足元の不安材料よりも先行きの楽観材料～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

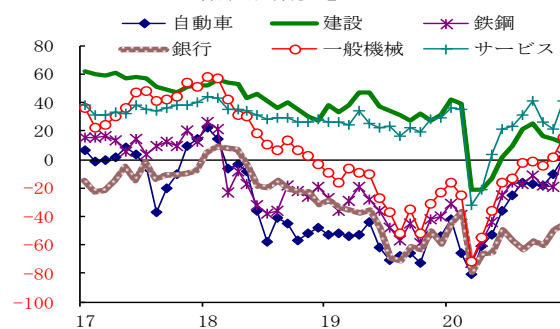
- 8日に発表された12月のドイツZEW景況感（金融市場参加者による半年先の景況感）は、+55.0と前月の+39.0から改善。約20年振りの高水準を記録した9月には届かなかったが、10月の水準をほぼ回復し、前月の落ち込み分を取り戻した。同時に発表された景気の現状判断は▲66.5と前月の▲64.3から小幅悪化し、11月からの都市封鎖再開後の低空飛行が続いている。ただ、春の第一波時と比べると、業況の冷え込みは軽微にとどまる。
- 調査票の回収期間は11月30日～12月7日。欧州各国での都市封鎖再開、英EU間の将来関係協議、EU予算と復興基金を巡る東欧諸国との対立、ドイツでの感染拡大継続と都市封鎖の延長強化、付加価値税率の時限引き下げの終了など、業況悪化要因もあるが、世界的な株高傾向、ワクチン開発の進展、大統領選後の欧米関係の改善期待、追加金融緩和期待、世界景気の底入れなどを反映し、市場参加者の業況は底堅い。ドイツ以外の国・地域の先行きの業況判断も揃って改善した。
- 業種別の業況判断は、建設と情報通信を除いて前月から業況が上向いた。サービス業や小売業の業況改善は、足元の感染拡大と都市封鎖の延長や付加価値税率の引き下げ終了よりも、ワクチン開発進展への期待感が上回っていることを示唆。鉄鋼や自動車の業況改善は、世界的な景気回復期待とともに、バイデン政権誕生による欧米間の報復関税の応酬が回避されることへの期待感の現れとみられる。

■ドイツ：景気の現状・先行き判断



出所：ZEW

■ドイツ：ZEWの業種別景況感



出所：ZEW

■ドイツ企業業況感（季節調整済み）

	2020				2020											
	1Q	2Q	3Q	4Q	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
ZEW景況感（先行き）	-4.7	47.5	69.4	50.0	28.2	51.0	63.4	59.3	71.5	77.4	56.1	39.0	55.0			
現状指数	-22.8	-89.4	-76.1	-63.4	-91.5	-93.5	-83.1	-80.9	-81.3	-66.2	-59.5	-64.3	-66.5			
Ifo景況感（総合）	92.5	80.7	91.9	—	75.4	80.4	86.2	90.2	92.4	93.2	92.5	90.7	—			
現状指数	96.9	79.9	87.2	—	79.4	78.9	81.4	84.5	87.9	89.2	90.4	90.0	—			
先行き指数	88.3	81.6	96.9	—	71.6	81.8	91.4	96.3	97.0	97.3	94.7	91.5	—			
PMI製造業指数	46.2	38.8	53.2	—	34.5	36.6	45.2	51.0	52.2	56.4	58.2	57.8	—			
サービス業指数	46.1	32.0	52.9	—	16.2	32.6	47.3	55.6	52.5	50.6	49.5	46.0	—			

出所：ZEW、Ifo、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

